

「JAF エアロビク競技・採点規則 2017-2020」確認事項

1. 公式競技「難度エレメント」について 【確認】

- ① 回転を伴う難度エレメントについて、第1部：「公式競技」規則 付録4「難度エレメント・プールと評価点」に記載の最多の回転数を超えて回転を伴う難度エレメントが実施された場合、難度エレメントの最低条件が満たされていた際には、付録4に記載されている最多の回転数の評価点が与えられる。
◇ 例： 「BALANCE 4/1TURN」は「D228 BALANCE 3/1TURN」と同じ評価点となる。
- ② ヘリコプターが不完全な旋回／回転（45° 以内）で実施された場合には、難度審判員による難度評価点は与えられるが、実施審判員は「0.3」の実施減点となる。
- ③ バランス・ターンでのホッピングは、ターンと同様の実施減点「0.3」となる。
- ④ 難度エレメントの主要局面はクリアなフォーム（ポジション）を見せることが必要であり、間違ったフォーム（ポジション）は採点規則に記載されている実施減点が課せられる。（例：スプリット・ジャンプ・トゥ・プッシュ・アップ等）
- ⑤ ミックス・ペア、トリオ、グループ部門では、実施審判員はその動きの実施度の最も低い選手のミスが減点する。この考え方はチーム競技のエアロビク・ダンス部門でも同様である。
- ⑥ グループ部門で、異なった2つの難度エレメントを同時に実施した場合：
◇ 「同時」とは、これらの難度エレメントの実施が開始されるタイミングが同時ということの意味する。難度エレメントの実施時間の意味では無い。従って、これらのエレメントが同時に開始され、難度エレメントの最低条件を満たしている場合は有効となる。

◇

2. 公式競技のミックス・ペア、トリオ、グループ部門で、コラボレーション中のプロペリング動作は禁止動作となる。チーム競技のエアロビク・ダンスも同様の考え方になる。【確認】

以上